

# 教育委員会会議録

平成30年6月1日（金） 午前10時00分 開会

午前10時35分 閉会

## 1 議事日程

別紙のとおり

## 2 出席した委員等

平松直巳教育長、則竹伸也委員、廣美里委員、大須賀憲太委員、広沢憲治委員  
伊藤志のぶ委員

## 3 説明のため出席した職員

新村和昭事務局長、橋本礼子次長兼管理部長、柴田悦己学習教育部長  
玉山哲郎生涯学習スポーツ監、須田文清総合教育センター所長、横井英行総務課長  
野村均教育企画課長、瀨瀬知行財務施設課長、稲垣直樹教職員課長  
稲葉均福利課長、冨田正美生涯学習課長、小林整次高等学校教育課長  
伊藤克仁義務教育課長、北島淳特別支援教育課長、木村誠保健体育スポーツ課長  
中田勝徳文化財保護室長、馬場茂インターハイ推進室長、加藤吾郎健康学習室長  
伊藤尚巳総務課主幹、稲垣宏恭教育企画課主幹、橋本具征高等学校教育課主幹  
畑中丈彦特別支援教育課主幹、渡辺浩志保健体育スポーツ課主幹  
大谷健二教育企画課課長補佐

## 4 前回会議録の承認

平松教育長が各委員に諮り、前回の会議録は承認された。

## 5 教育長報告

平松教育長が各委員に諮り、報告事項（2）公立学校教員の懲戒処分については、人事案件のため、報告事項（5）平成30年度第2回愛知県教科用図書選定審議会の概要については、教科書採択の公正確保のため、非公開にて報告を受けることとした。

### （1）平成31年度愛知県公立学校教員採用選考試験の志願状況について

稲垣教職員課長が、平成31年度愛知県公立学校教員採用選考試験の志願状況について報告。

平松教育長が各委員に諮り、報告事項は了承された。

〔委員の主な意見及び事務局の説明〕

（廣委員）

昨今、テレビなどで転職を斡旋するようなCMが流れる中、民間企業への就職後、転職を繰り返してステップアップしていくという考え方が定着しつつある。公立学校教員の採用計画は、教員が定年まで働くことを念頭に置かれてきたと思うが、時代が変化していく中で、若い教員の早期退職はどのよ

うな状況にあるのか。

また、今年度の志願状況の傾向をみると、小中学校は、募集定員が変わらないなか倍率が低下していたり、特別支援学校は、募集定員を増やしているなか倍率が低下していたりする状況がある。昨年、働き方改革が世の中で叫ばれる中で、教員という職種は、多少、敬遠されがちになっていることが反映された数値なのかとも考えられるが、若い教員の定着率などを教えてもらえるとありがたい。

(稲垣教職員課長)

今年度、倍率が下がっている主な原因は、景気が良いためであり、民間企業に流れている分、教員の倍率が下がってきている。これは、教員という職種を数ある選択肢の一つと捉えていた求職者が、民間企業に流れていると考えられるが、一方で、教員になりたいという想いが強い人が集まっているということも言えるのではないかと。

また、定着率の統計はとっていないが、1年以内の退職者をみると、やりたい仕事があるから転職したいという理由よりも、教員に合わないという理由でやめていく教員が多く、民間企業で働く方に見られるような、スキルアップを目指して転職を繰り返すという教員は少ない。また、他県で採用されていたが、やはり地元で働きたいということで、本県を受けなおすという教員もいる。

なお、志願者総数が減少している一方で、特別選考の志願者数に変動がみられないことから、質の問題は別であるが、真に教員になりたい方が、志願している状況にあると考えられる。

(廣委員)

世の中が、転職することが常套になっていくなかで、やはり教育職というのは、他の職種とは違うということを思いたい。しかし、このような働き方の変化を逐次観察し、教員採用計画等に反映していくことは事務局として大事なことだと考えている。

(2) 公立学校教員の懲戒処分について

非公開において報告されたため、愛知県教育委員会会議規則第14条第3項の規定により、会議録は別途作成。

(3) 愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議（平成30年度第1回）について

小林高等学校教育課長が、愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議（平成30年度第1回）について報告。

平松教育長が各委員に諮り、報告事項は了承された。

[委員の主な意見及び事務局の説明]

(廣委員)

資料8ページのⅢ「調査結果の概要」2「選抜基準別の合格者数」(3)「専門学科及び総合学科」の「職業」という区分は、どういうものか。

(小林高等学校教育課長)

農業、工業、商業、水産、家庭、看護及び福祉に関する学科においては、他の学科に共通する運動、文化、芸術、奉仕活動等の諸活動のいずれかにおいて優れた能力・適性及び実績等を有する者を対象とした「ア」推薦、恵まれない環境を克服し、向学心に富み、生活態度が他の模範となる者を対象とした「イ」推薦、調査書の学習記録が優秀で、学習活動において他の模範となる者を対象とした「ウ」推薦に加えて、進路希望が明確で将来当該学科に関する職業に就く意志を有するものを対象とした、「エ」推薦と呼ばれるものがあり、家業を継ぐ者などが推薦の対象となる。

(廣委員)

入試の際に補助資料として提出を求めるものは、自作の小論文など何かあるのか。また、おそらくは、それぞれ「ア」、「イ」、「ウ」の推薦を証明するものを求めると推測するが、「エ」の推薦についても何か公的な証明がなされるようなものを提出して、推薦の基準を満たすということを行っているのか。

(柴田学習教育部長)

推薦書の中に、そういった後継者であること、あるいは当該学科を学ぶ意欲がどれほど高いか、といった内容を記載した書類を提出していただく。そういったものを基に、推薦入試の際に面接等を行って、実際には、記載されている状況はどうであるかを確認したうえで、可否を決めている。

(廣委員)

それは公的な書類なのか。

(柴田学習教育部長)

当該推薦書は、学校長の印鑑が押されたものであるため、公的な証明ということである。学校長の証明は、非常に大きなものであると認識をもっているため、重要な証明書類として推薦入試の際の資料として使わせていただいている。

(廣委員)

例えば、「ア」推薦は、何かの大会に出場し、優勝したり、入賞したりすると公的な資料があり、それを添付して校長が証明する。「イ」推薦は、家庭環境等について事情を証明するような公的な書類により証明する。「ウ」推薦は、学習成績であれば各先生がつけた成績表に、最後は学校長の印鑑が押され成績証明書となる。

「エ」推薦については、当該生徒の家業等に関して、当該生徒が通学する中学校長が証明する。中学校長が学校外の内容に関して証明することが、公的な証明として通用するのか少し納得が難しい。

(小林高等学校教育課長)

例えば、農業科については、入学者選抜実施要項の中に農業経営状況調査書が、水産学科については、水産業経営状況調査書があり、当該調査書に必要事項を記載の上、提出していただいております、中学校長が証明する推薦書に

併せて推薦入試の際の資料として使用している。

(廣委員)

複数の証明書類で確認をしていることを理解した。

- (4) 新城有教館高等学校の入学者選抜について  
小林高等学校教育課長が、新城有教館高等学校の入学者選抜について報告。  
平松教育長が各委員に諮り、報告事項は了承された。
- (5) 平成30年度第2回愛知県教科用図書選定審議会の概要について  
非公開において報告されたため、愛知県教育委員会会議規則第14条第3項  
の規定により、会議録は別途作成。  
平松教育長が各委員に諮り、報告事項は了承された。

6 請願  
なし

7 議案

第19号議案 第76回国民体育大会冬季大会スケート競技会（ショートトラック・フィギュア）及びアイスホッケー競技会の開催について

木村保健体育スポーツ課長が、第76回国民体育大会冬季大会スケート競技会（ショートトラック・フィギュア）及びアイスホッケー競技会の開催について請議。

平松教育長が各委員に諮り、全員一致により原案どおり可決された。

[委員の主な意見及び事務局の説明]

(廣委員)

こういう大きな大会を愛知県が招致することは非常によいことだと思う。フィギュアスケートを中心に本県はウィンタースポーツが強いので、観客は喜ぶし、県民に対しスポーツの高揚感を与えるチャンスでよい機会であると思うが、実際に運営するとなるとそれぞれの当事者たちには負担をかけることも考えなければならない。

今回の開催は、本県での前回開催から、おおよそ10年後の開催であると思うが、今後、本県の開催頻度が高まっていく傾向があるのか、若しくは、前回からの期間と同じようにおおよそ10年に1回となるのか、この辺がどのように予想されているのか教えていただきたい。

(木村保健体育スポーツ課長)

冬季大会を開催できる県が限られており、9年ぶりの開催となるが、それくらいの期間でまた開催の要請があるのではないかと考えている。10年に1度ペースではないかと今のところ思っている。

(橋本次長兼管理部長)

以前、ローテーション化という話もあったが、なかなかそのローテーションを決めるまでに至っていない。今、課長から申し上げたとおり、開催可能な県が限られており、冬季大会は、これ以外にもスキーやスピードスケート

があるが、本県は、スキーが開催できないことに加え、スピードスケートも400メートルのスケートリンクがないため開催できない。

こうした状況から、様々な県と組み合わせて開催しているが、なかなかやり手がいないことから、本県の次回開催が早まる可能性もあるし、一方で、フィギュアスケートに関しては、他県においてリンクが整い始めているようなので、そうなればフィギュアスケートに関しては、開催が遅くなる可能性もあるかもしれない。その辺の予測はつかないが、おおむね9～10年のスパンで回っていくという心づもりでいたい。

## 8 協議題

平松教育長が各委員に諮り、協議題 平成30年度教育委員会所管6月補正予算(案)については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条に基づく事前協議であるため、非公開において審議することとした。

協議題 平成30年度教育委員会所管6月補正予算(案)について

非公開において協議されたため、愛知県教育委員会会議規則第14条第3項の規定により、会議録は別途作成。

## 9 その他

なし

## 10 特記事項

平松教育長が今回の会議録署名人として伊藤委員を指名した。